

# わんちゃん読書会 (R.E.A.Dプログラム) に参加する イヌのストレス検証研究

1年を終えての経過報告

獣医学部 小動物臨床医学  
島村俊介



大阪公立大学  
Osaka Metropolitan University

## 研究の目的

近年、「ペット」に代表される動物との関わりによる肯定的な効果が現代社会に生きる人への新たな処方箋として注目され、動物介在活動や動物介在療法を包括する、いわゆるアニマル・セラピーが様々な場所で開催されています。一方で、アニマル・セラピーに参加するイヌをはじめとする多くの動物への影響について配慮すべきとの指摘がなされるようになってきました。

「動物介在療法・活動が動物に影響を及ぼさないように  
予防的措置・配慮をすること」

人と動物との相互作用に関する国際学会 (IAHAIO) における提言 1998

これは単に動物福祉の面からだけでなく、ストレスを感じた動物がヒトに対して対抗しようとして咬んだり引っ掻いたりするといった事故の防止という面からも重要と考えられています。しかしながら、アニマル・セラピーに参加する動物のストレスについての報告は少ないのが現状です。そこで、私たちはR.E.A.Dプログラムに参加するイヌのストレスを検証することに挑戦することとしました。

## 研究スケジュール

READ参加前 (PRE) と後 (POST) に別室 (控室) で飼い主と共に安静条件にイヌをおき、READ中のイヌの変化をその前後と比較することとしました。



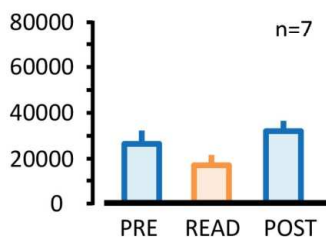
イヌたちはウェアラブルデバイスを装着してR.E.A.Dに参加します



## 結果

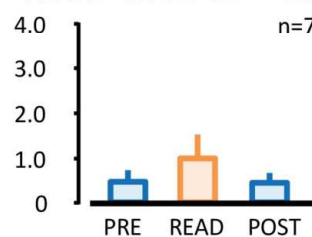
### SD1 × SD2

交感神経が活性化すると下がる指標



### LF/HF

交感神経が活性化すると上がる指標



### 心拍リズムと自律神経

心臓の拍動リズムは、外環境に適応するため、自律神経による調節を受けて変動しています。この自律神経にはアクセルに例えられる交感神経とブレーキに例えられる副交感神経のバランスで調節を行っていて、**ストレスがかかる**と**交感神経が活性化**し、心拍が早くなります。



イヌには予めREAD参加前にウェアラブルデバイスを装着することで、実験期間を通じた心電情報を取得しました。心拍間隔の変動から自律神経活動を指標化する心拍変動解析を用いて、取得した心電情報からイヌたちのストレスを検証しました。R.E.A.D参加前後の安静状態 (青色) と比較してR.E.A.D中 (橙色) の指標 (SD1×SD2、LF/HF) は、交感神経の活性化を示す傾向が見られましたが、明らかな (統計的に有意な) 変化は見られませんでした。

## まとめ

- ・ R.E.A.Dプログラム参加を通じて、イヌの自律神経活動に明らかな変化はみられなかった  
→イヌはプログラムへの参加をストレスと感じていない
- ・ イヌがストレスと感じなかった理由
  - ・ イヌの適性が高い (当施設で参加しているイヌは専門家による訓練を受けています)
  - ・ R.E.A.Dのプログラム内容はイヌにとって低ストレス

### 課題

今回の結果は7例での途中経過です。より正確に検証するためにはサンプル数を増やす必要があります。引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。